

大規模スポーツイベントのレガシーに関する事後評価

名城大学 学生会員 ○道場 俊介

名城大学 正会員 鈴木 温

1. はじめに

2021年、東京オリンピックが開催され、多くの選手村や競技に関する施設が建設された。2026年には名古屋でアジア競技大会が開催されることが決定しており、現在、開催に向けた施設整備等の準備が進められている。大規模スポーツイベントの開催のために整備した選手村は住宅等として整備される他、その近辺に様々な新施設を建設し、1つの都市として再開発するケースが主流になりつつある。

そこで本研究では、2012年以降のオリンピックの選手村跡地が、整備前にどのような用途で利用されていたか、大会のために周辺にどのような整備を行ったか、大会後どのような形のレガシーとして残っているかを整理し、2026年の名古屋でのアジア大会に向けた提案やリスク要因の考察等を行うことを目的とする。

2. レガシーの定義

レガシーという言葉は、一般的には遺産という意味を持つ。過去に築かれ、現在も精神的・物理的に残っている物の意であることから、オリンピック後に残る施設や文化的な名残などを総じて、レガシーと呼ぶようになり始めた。しかし、これは公的なものではなく、オリンピックにおけるレガシーの概念は国や地域によって大きく異なる。Cashman¹⁾は、レガシーはつかみどころのない言葉であることから危険であるとみなした。また、それを踏まえてChris²⁾らは、レガシーとは、「スポーツイベントを通じて作成された、計画されたものとされていないもの、ポジティブ、又はネガティブなもの、有形又は無形であり、イベント後も残るもの」とした。

3. アジア大会

アジア大会とは、アジアの各国で行われるオリンピックに並ぶ大規模スポーツ大会のことであり、過去2回日本で開催されており、2026年には名古屋で開催予定である。アジア大会の選手村は、名古屋市港区の旧名古屋競馬場跡地に整備予定である。選手村には選手

と大会関係者約15,000人を収容する宿泊所や、娯楽施設等が設置され、大会後はスーパーやレストランなどの基本的な施設の他、公園や住宅、更には2029年に愛知県小牧市の誉高校普通科のキャンパスが敷地内に移転する予定であり、大会後の持続可能な都市づくりが計画されている。

4. 近年のオリンピック選手村跡地と施設整備

4.1 ロンドンオリンピック

選手村として利用されていたイーストビレッジは、当時選手とスタッフ16,000人を収容し、現在も6,000人を収容している。現在ある2,818戸はほぼ全て埋まっており、2030年までにオリンピックパーク内に、計8,000戸におよぶ5つの新しい住宅地が誕生する予定である。

その他にも新たな競技場をはじめ、金融行動監視機構(FCA)や、ロンドン交通局の本部が設置される予定のインターナショナルクォーターロンドンが現在建設中、大学の新キャンパスなど、様々な施設の増設が今も検討されている。パークが作られた場所はプラントが立ち並ぶ工場地帯であり、深刻な土壌汚染が問題となっていた。そこに土壌浄化作業を施し、オリンピックパークを建設した。既に4つの地下鉄、2つの国鉄、ドックランズライトレイルウェイと複数の路線が開通していたが、大会に向けてさらに増築を施し、新たにセントパンクラス駅やその他の国際駅を通るCTRL(channel tunnel rail link)を開設し、ストラットフォード国際駅として改めた。オリンピックパーク内には仮設2個を含む8個の競技場が新設され、残った6個も使われ続けている。

4.2 リオオリンピック

バラ・ダ・ティジュカにあるリオ大会の選手村は、マンション31棟、3,604戸、大会期間中18,000人を収容したオリンピック史上最大規模の選手村であるが、大会後に放棄され、現在は廃墟になっている。選手村のあるバラ・ダ・ティジュカは、2007年開

催のパンアメリカン競技大会のために、既に3個の競技場が設置されていた。その後新たに6個の競技施設が増築され、計9つとなった。交通インフラは、五輪の競技場があるバラ・ダ・ティジュカ、デオドロ、コパカバーナ、マラカナンを接続する地下鉄が2路線新しく建設された。

4.3 東京オリンピック

東京都中央区晴海1丁目にある選手村は、マンション21棟、18,000人を収容するなど、リオ大会の時とほぼ同規模である。現在は、選手村のリフォームとして、新たな住宅用としての超高層タワーと、その周辺施設として商業施設や消防署などの増築が進んでいる。

選手村がある東京都中央区晴海1丁目は、かつて東京都港湾局専用線という貨物船が乗り入れる工業地帯であり、線路や橋梁、倉庫などが遺構として長く残されていたが、2015年に選手村建設が決定し20年に完成した。交通インフラは、首都圏の3環状線（中央環状線、外環道、圏央道）が新たに拡大され、鉄道では地下鉄で虎ノ門ヒルズ駅、JRで高輪ゲートウェイ駅などが新設され、競技場周辺の各駅も改築が行われた。大会のためにオリンピックスタジアムをはじめとした9つの競技施設が新設された。

5. まとめと考察

以上の情報をまとめたものを表-1に示す。各大会の評価から、後の再開発の際に多様な施設を増築する

こと、跡地から都市圏への強固なアクセス手段を確立することが重要であると考え。現段階のアジア大会の計画では都市圏へのアクセス手段にあおなみ線や路線バスがあるが、両者とも本数が少ないため、混雑時の本数増加や路線拡大が必要と考える。また、誉高校のキャンパス移転が計画されているが、現時点では港区や周辺の区でも学校が少なく、教育機関に関しては今後も課題が残る可能性がある。そのため、他の高校や大学などの誘致を今後も積極的に行っていく必要があると考える。

6. おわりに

本研究では、2012年以降の夏季オリンピックのレガシーについてまとめ、アジア大会に向けた考察を提案した。今後は、今回提案した考察により具体性を持たせるため、それぞれの選手村の場所の都市計画マスタープランや立地条件、候補地決定の背景を文献等から調査する予定である。

参考文献

- 1) Cashman, R. The bitter-Sweet Awakening: The Legacy of the Sydney 2000 Olympic Games. Sydney, Walla Walla Press, 2005.
- 2) Chris Gratton & Holger Preuss : Maximizing Olympic impacts by Building Up Legacies,
- 3) EVAKASSENS-NOOR : planning Olympic legacies, Routledge, 2012.

表-1 選手村の状況

	所在地	選手村選手等収容人数	以前の土地利用	新規インフラ施設設備	現在の用途	現在の状況
ロンドン (2012)	ロンドン市庁舎から約7km 車で24分 電車で41分	16,000	土壌汚染地帯	CTRL 競技場8カ所	クイーンエリザベスオリンピックパーク	都市として機能し、新たな施設も建設中、今も発展を続けている。
リオ (2016)	リオデジャネイロ市役所から約30km 車で30分	18,000	他大会の複合施設	地下鉄2路線 競技場6カ所	廃墟	選手村だけでなく、ほかの施設も完全に放棄されている。
東京 (2021)	東京駅から電車で27分、 車で14分	18,000	工業地帯跡地	競技場9カ所	現在都市開発中	住居の増築と商業施設などの建設中